"しんじ"を信じる　京都府議会議員

二ノ湯しんじ通信

第33号

編集・発行
二ノ湯しんじ事務所

〒616-8167
京都市右京区太秦多藪町44-1
TEL：075-862-1355
FAX：075-862-1350
ninoyushinji@palette.plala.or.jp
URL:https//ninoyu.net

今こそ、伝統が未来を拓く！

大自然と調和した潤いある生活の再生に向けて

公約実現にむけて一生懸命頑張ります

四月七日投開票で実施された京都府議会議員選挙では、１３０４７票を頂戴し、四期目の当選を果たすことができました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

今回の公約は、①府市による成長戦略の共有、②京都の蓄積を活かした新たな価値の創造、③地域社会の再生、です。四年の政治活動を経て、前回の公約が深化した形です。それには、京都が目指すべき姿が私にも見えてきたことが大きいと思います。

世間にほとんど知られていませんが、オール京都で定めた「京都ビジョン２０４０」という目標があります。そこには、文化・大学の魅力で世界中から人々が集い新たな価値が創造される「世界交流首都」を目指すとされていて、私も概ね同意します。無責任に目標を立てるだけなら、オール京都で議論する意味が無くなるので、私はその実現のために微力ながら頑張ります。

地方公共団体はこれまで国からお金をもらうことで満足し、自ら稼ぐ（富を生み出す）努力が欠けていたと思います。府市二重行政解消による無駄削減では、今後の医療・福祉関係経費等の増加に伴う財源不足を解消できません。

経済成長が必要となりますが、人口減少の中では、長い歴史で蓄積された有形無形の資産を今に必要な新たな価値として活用することが不可欠です。今までと同じモノを作り、サービスを提供するだけでは京都は衰退します。

幸いに経済が成長し、官民ともにお金は潤沢になっても、それだけで人々が安心して幸せに暮らせる訳でありません。在宅医療・在宅介護が進んでいく今後は、家族や地域での人々の助け合いが、改めて大切になります。

今後は、国際化の進展、環境・エネルギー問題、さらには近隣諸国との安全保障も視野に入れた地方政治が必要となります。常に大所高所から考え判断し、世界に貢献し後世に誇るべき郷土を創るため一生懸命働きます。引き続いてのご指導を宜しくお願い申し上げます。

人口減少が社会全体に変更を迫り不安が膨らむ一方、令和を迎え新しい世を創ろうとの雰囲気もあります。「四十にして惑わず」、いつも信念と希望を頼りに京都が日本の指針を示すべく一生懸命に働きます。

本年は、諸事情により恒例の「夏祭り」は開催致しません。楽しみにして頂いていた皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

二ノ湯しんじe通信(メルマガ)もお読みください!!　ご希望の方は、merumaga@ninoyu.net にメールをお願いします。

日々の活動はこちらで⇒ホームページ　二ノ湯しんじ　検索　二ノ湯しんじ事務所　検索

「調和ある社会を実現する会」入会のお願い

「自然と経済」「伝統と革新」「私と公」「官と民」等、調和ある社会の実現のために一生懸命頑張ります。私の政治活動を物心両面からお支え頂きたく、皆さまのご協力の程宜しくお願い申し上げます。

●年会費：1口1万円（１口以上）
●隔月開催の勉強会等に優先案内

〈歩こう会ご案内〉

「歩くことは健康の基本」と毎月第４日曜日に開催！

「しんじ通信」手配りのお願い

郵送費を減らし発行部数を増やすため「数ヶ月に１度、ご近所の30軒程度」手配りのご協力を頂ければ幸いです。

＊それぞれの詳細については、事務所までお問い合わせください。

3月6日 予算特別委員会総括質疑

新しい総合計画について

（二之湯）オール京都で策定された「京都ビジョン２０４０」では、文化・大学・価値創造を３つの柱に世界交流首都京都を目指すとしている。知事もそれを尊重するとされるが、新しい総合計画の長期ビジョンの中では、それら３つの分野については、どのような明確な指標と数値目標があるのか。

また、知事就任後、観光総合戦略や子育て環境日本一を重点的な取組とされているが、その分野における指標や数値目標はどのようなものか。

（西脇知事）総合計画において、２０４０年を描く「将来構想」では、人口予測や世界経済の潮流を見据えながら、文化や大学集積等の京都の強みを踏まえ、将来像を理念的に描く。また、４年間の「基本計画」では、子育て、産業、文化など20の戦略を設定し、具体方策と20年後の将来像も併せて示す。これは今までにないもので、委員の考え方に通じるものだ。

数値目標は、具体方策の進捗管理に生かすため、また、施策の目指すべき状態を府民に分かりやすく示すためのもので、基本的には４年間の具体方策に設定したい。20年後の数値目標は、変動要素が多く設定が難しいが、検討したい。

「観光」分野では、京都市以外への誘客が課題なので、「府域観光消費額・客数」など、府域に着目した指標を設定し、「子育て」分野では、施策のウイングを広げ、それらを分かりやすく評価できるよう、夏までに取りまとめたい。

大学政策について

（二之湯）日本一の大学の集積を京都の強みとするが、それは具体的にどんなことで、京都府は十分に活用してきたと評価しているか。

また、少子化で大学の経営難が予想されるが、府内大学は社会人全てを対象にして経営を強化すべきだ。例えば「大学の講義を動画配信し、経済的な理由で京都に来られなかった若年層、再教育を必要とする社会人、高齢者に学ぶ機会を与えて、大学は授業料収入を増やす。学生は、在宅学習により節約できた時間を奉仕活動や府内企業での研修にあてる。企業は、採用機会を拡大するとともに、課題解決策の研究を大学に依頼する。大学は、研究資金の獲得が期待できる。」この政策案を、知事はどう評価するか。

さらに、大学による国際交流を進めるべく、大学の海外進出や、海外の大学の研究機関等の誘致が必要と考えるが、知事の所見を伺う。

（西脇知事）大学の集積による強みは、国内外から学生、研究者が集い、企業との連携が図りやすいこと。京都では早くに「京都産学公連携機構」が生まれ新事業等を創出してきたし、京都経済センターでその連携をより強めたい。

また、各大学が政策提案や市町村との連携協定をしているほか、学生が子育てや防災などのボランティア活動に参加し、地域を支える一員となっている。

ご提案の講座の動画配信の政策案は、有効な手法だと評価する。

大学による国際交流は、協定を結んだ大学との繋がりから発展することが多く、府立の両大学はともに２２大学と協定を結んでおり、期待したい。さらには、留学生の受入れや海外の大学の幅広い分野での人材交流を促進したい。

その他、「文化財行政」「産業分野における新たな価値創造」について質問しました。

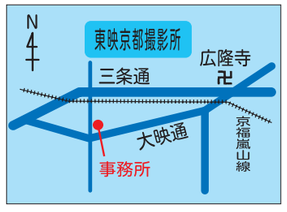
府議会日程

●5月臨時会
5月20日～24日
田中英夫氏（自民・亀岡市）が第81代議長に、**私が第72代副議長に選ばれました。**

●6月定例会
6月12日～7月4日
各地で起こる交通事故や犯罪をふまえた安心安全対策、国土強靭化政策を活かした公共事業等、１００億円をこえる補正予算案や「新総合計画案」に対する審議を中心に開催されます。

お困りごとなどご相談ください

府・市の役割分担は分かりにくいものです。まずは私の事務所にお問い合わせください。



◆ともに語り合いましょう！

奇数月は「セミナー＆懇親会」（市内ホテル等）偶数月は「居酒屋真友会」（右京区）を開催しています。ぜひご参加ください。

また、随時座談会なども受け付けます。

選挙戦を通じて捉えた課題を政治の力で解決に導くことで、京都が日本の希望となるよう頑張ります！

府議会議員選挙ダイジェスト

日本、そして京都も、少子高齢化による人口減少社会に突入していますが、その中で、若年層と高齢者、人口が増加する地域と減少する地域、伸びている産業と厳しい産業等、立場によって状況の良し悪しや想いの違いがはっきりしていると感じました。

若年層からは「子どもに安全な環境（遊び場・保育等）」「公立の小中学校の充実」「男女の違いに対応した社会システムの確立」「努力を促し不正を許さない社会保障制度」等の声を、高齢者からは「公共交通の利便性向上」の要望や「身を修め、郷土や国を大切にする教育の充実」や「若者を大切にする政治」といった「日本の将来（世代）を心配する声」を、それぞれ多く頂きました。

過疎地域では、年配者からは「不利な条件（道路・交通等）の是正を」と、若年者からは「田舎の価値をどう活かすか」と、異なる意見が聞かれました。人口増加地域では、「自治会の加入が4割になった」等、自然災害が頻発し在宅介護・医療等で地域の助け合い・絆が大切という時代の要請に逆行する状況を再確認しました。

京都では、産学官の連携がスムーズで新事業が成立しやすいと言われてきましたが、近年、開業率は全国平均を下回っています。京都らしさを象徴する伝統産業・芸能・芸術分野は総じて衰退し、事業者の多くは零細で挑戦する力が弱く、「文化庁」移転を前に暗雲が立ち込めています。

いずれも、「格差」と一言で語れる単純な問題ではなく、丁寧に対応する必要があり、地方政治・行政だけで解決は難しくとも、明確な問題提起は現場に近い我々の仕事です。そのために、今後もより多くの声に耳を傾け、現場を見ることに努めます。

「演説会」：「聴く選挙」を掲げて、私の演説は少しにとどめ参加者の意見を聴く座談会としました。どの会場も予定の時間を超過し、様々な想いや課題を把握でき、活動の指針も明確になり、有意義でした。

「街頭演説」：日中は住宅地に人が少ない「ネット時代」に、選挙車が政策宣伝の主な手段とは時代錯誤ですが、それしか無い以上、注目されて安定して宣伝できるようBGM付音声（私の声）を流し続けました。

「出陣」：選挙は単なる「候補者の就職活動」ではなく、「有権者の想いの表明」です。有権者と候補者が、京都の将来について語り合い、意識を高めあって、次代を創る力となるように努めますと決意表明しました。

「過去４回の右京区の投票結果」

平成３１年　投票総数　６２，２０１票
（投票率　３８．５６％）
平成２７年　投票総数　６４，５１８票
（投票率　４１．２６％）
平成２３年　投票総数　６５，７５７票
（投票率　４３．４２％）
平成１９年　投票総数　７０，６８５票
（投票率　４５．８１％）

「過去４回の右京区の投票結果」
投票率は低下の一途ですが、「社会に関心はあるが地方政治との繋がりが分からず投票しない」人々はいます。地域や職場での人間関係が希薄化したネット社会に相応しい活動もし、状況改善に努めます。

「開票・当選」：開票作業を見学し、自分以外の名前が書かれた投票用紙も目の当たりにし、有権者でない方々も含む全体の奉仕者として活動しようと誓いました。喜びを分かち合える仲間の存在にも感謝です。

「ネット広報」：自分の政治理念・政策、活動、経歴等を簡潔にまとめ直したHPの特別ページを設け、ポスターやビラにQRコードを印刷しそれらに盛り込めない内容をHPで確認できるようにしました。

「若者への選挙ハガキ」：政策宣伝が目的なら、区役所の選挙人名簿を閲覧し書き取ることが許されます。今回の地方選挙から有権者となった約4500名の若者に、政治参加（選挙）の意義を伝えました。

「しんじGO行列」：いわゆる「桃太郎作戦」です。今回も、私が取り組む映画・芸術振興等の仲間達が協力してくれました。とても注目はされましたが、政策の普及にはなりませんでした。

〈身辺雑記〉

○5月5日の子どもの日に、「祝改元！京都鴨川提灯行列」が開催されたが、私は、主催団体である「夜の京都まちあるき実行委員会」の委員長として、家族と参加した。約100人で鴨川の堤防を新しい世の平安を祈りながらゆっくり歩いたが、非常に気持ちが良く、周囲の注目も非常に高かった。「着物で夜の京都をまちあるき」が新たな京の風物詩になることを願っている。

Photo by Yusuke HIROTA

○ニューヨークからカーネギーホールの設立に深くかかわった伝統ある音楽団Oratorio Society of New Yorkのコーラス部門のメンバー約70名が来日し、京都フィルハーモニー室内合奏団の演奏のもと、日本で初めてとなるコンサートを、私が主催者代表として開催した。この3年間取り組んできた芸術・文化を通じた国際交流は、本年イタリアのみならず米国にも展開することになった。

○ニューヨークからの客人をもてなすために、「日本舞踊&三味線」@勝福寺、また「サムライショー・刀の解説」@本昌寺、等の日本文化イベントも開催した。芸術・文化を通じた相互理解の促進は、これからの我々の生活や経済を考えても非常に重要なことだ。文化庁を迎える京都の政治家の責任として、微力ながら今後も努力したい。

○「40歳の京都府議会副議長は最年少なのか？」府民の問合せから議会事務局が調べたところ、最年少は明治12年に就任された初代の松野新九郎氏で、若干29歳だった。当時は、普通選挙ではなく、西欧列強の脅威に負けじと富国強兵策が進められており、国情も随分違う。49歳で亡くなられるまで様々な公職で活躍されたと知り、改めて職責の重さを感じ、職務にまい進する意を新たにした。